2019/07/22

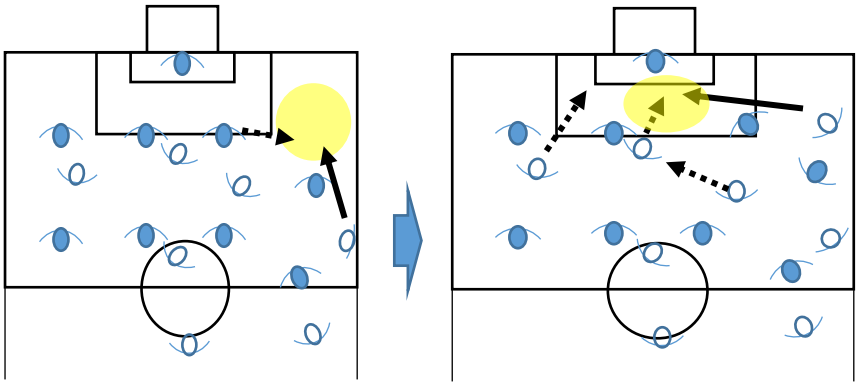
名南支部大会（vs 東海工専・同朋）を振り返って・・・

結果 | **vs 東海工専　5－0　勝ち　　vs 同朋　0－3　負け** |

１回戦（vs 東海工専）

相手の守備面での「チャレンジ&カバー」がしっかりと整備されていて、ドリブル突破を仕掛けても１人目は抜けるが、２人目でボールを奪われる場面があった。カバーリングを行う選手の存在を意識しているかどうかがポイント！！

サイドでの１vs１で突破でき、敵 CB をカバーリングさせることができれば得点の可能性が高まる。この瞬間にできる中央のスペース（ゴール前）を狙う選手が少ない。またはいない。←これでは得点を奪うことは不可能



【サイド突破→CB がサイドをカバー】
①ゴール前
②ファーサイド　狙うべきポイント
③マイナス

上記３点に進入することが大切！！
２回戦の同朋には、この部分（**スピード・パワー・人数**）で圧倒されてしまった。

課 題

・勝負所（チャンス・ピンチ）を知らないこと
失点を振り返る･･･
①CB 同士の横パス（パスの質）　→　PK を与える
②シュートこぼれ球への対応　→　敵は常に狙っていた
③ロングボールでの揺さぶり（左から中央）　→　ボールウォッチャーになり、ゴール前で敵をフリーにした

・攻守における個人戦術の理解度が低い（特に SH・SB）
①ポジショニング
②基礎技術（止める・蹴る）　※プレッシャー下での精度低下 ← 練習から近い距離での守備を心掛ける
③観ること　→　敵を見てプレーする習慣がない選手が多い

・フィジカル不足
①球際での強さ　→　競り負けて敵ボールになる（上半身の使い方など）
②地区リーグ２部のレベルに慣れてしまっている（普段とのギャップに戸惑う）

・チームの一体感
①攻撃のイメージを共有できていない（システム上の狙い目）
②守備の「奪い所」での奪取成功率の低さ　→　２vs１でも突破される場面も･･･
③プレッシングの理解度にばらつき　→　FW１人が追い込むが簡単にはがされる（逆サイドに展開）

【守備】
・中盤でのセカンドボールに対する人数の差　→　一気に複数での押し込みゴール前というイメージが強い

DF が立ったまま or 下がりながらヘディング　← 遠くにクリアできない

ボールを弾ませる → DF が立ったままヘディング　← 遠くにクリアできない

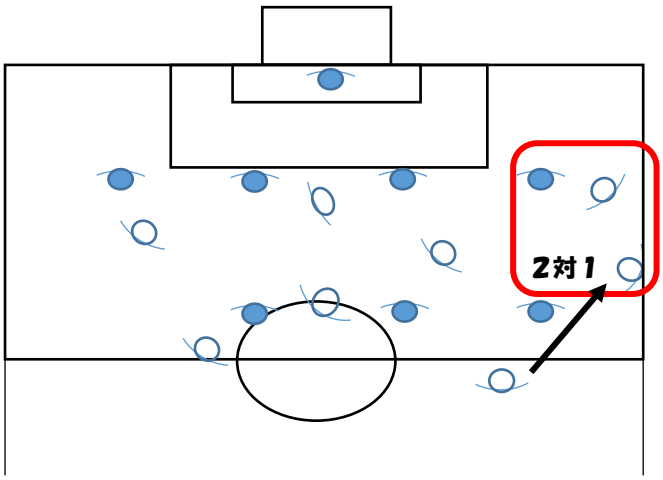
※同朋の選手は、このような場面を見逃さず人数を多くし、ゴールに迫ってきていた。

【攻撃】

ビルドアップ → 中盤を経由しての前進 → サイド攻撃

ｖｓ同朋戦では、システム上のメリット（サイドで数的優位を形成しやすい）をあまり活用できず、SH【平野/長谷川】の個による突破が目立った。前半は、ある程度突破することができシュート（前半：5、後半：4）を打つ。しかし、徐々に敵が対応し後半はサイドでの優位性が激減。中央の数的不利（２対３）での勝負が増えてしまった。

【サイド攻撃】



SB・SH（２人）対 敵 SB（１人）の数的優位での突破を試みる

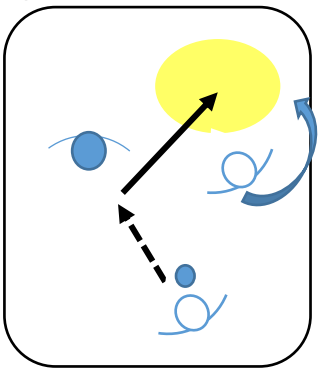
①SB が敵 SB へのドリブル → SH はプルアウェイの動き → SH が突破（PA 内への進入 or センタリング）

②SH へパス → SB がオーバーラップ → SB が突破（PA 内への進入 or センタリング）

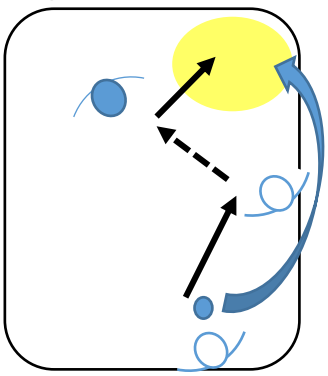
③SH へパス → SB がインナーラップ → SB が突破（PA 内への進入 or センタリング）

④OH へのパス → SH が DF 背後を狙う → できたスペースに SB がオーバーラップ（PA 内への進入 or センタリング）

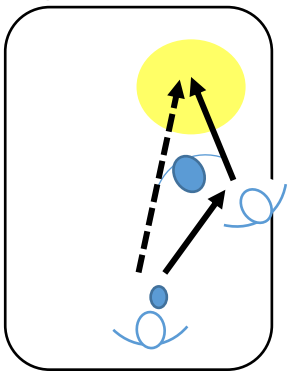
①プルアウェイの動き



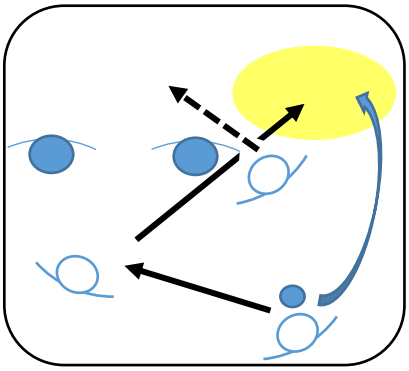
②オーバーラップ



③インナーラップ



④OH 参戦（３対２）



取り組むべきこと

サイドに限らず、上記のような２人での崩しパターンをチーム全員が理解し、実行できるようにする必要がある。そのため、**個人スキル（パス・ドリブル/観ること）＋イメージの共有**が不可欠。

合宿では、「**チームの一体感**」をテーマに取り組んでいこうと思う。まず、選手一人ひとりが自らの意見を言うことが大切。間違ったら･･･と思い、**意見を言わないことが一番の失敗**である。自分には、チームのために何ができるのか。

サッカーに対して真剣に向き合い、チームのことを考えられるようになれば、個人だけでなくチームとしても必ず成長する！！　本気になろう！！

サッカー部顧問　愛知　輝樹